

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大和中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童(中学校3年生生徒)

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

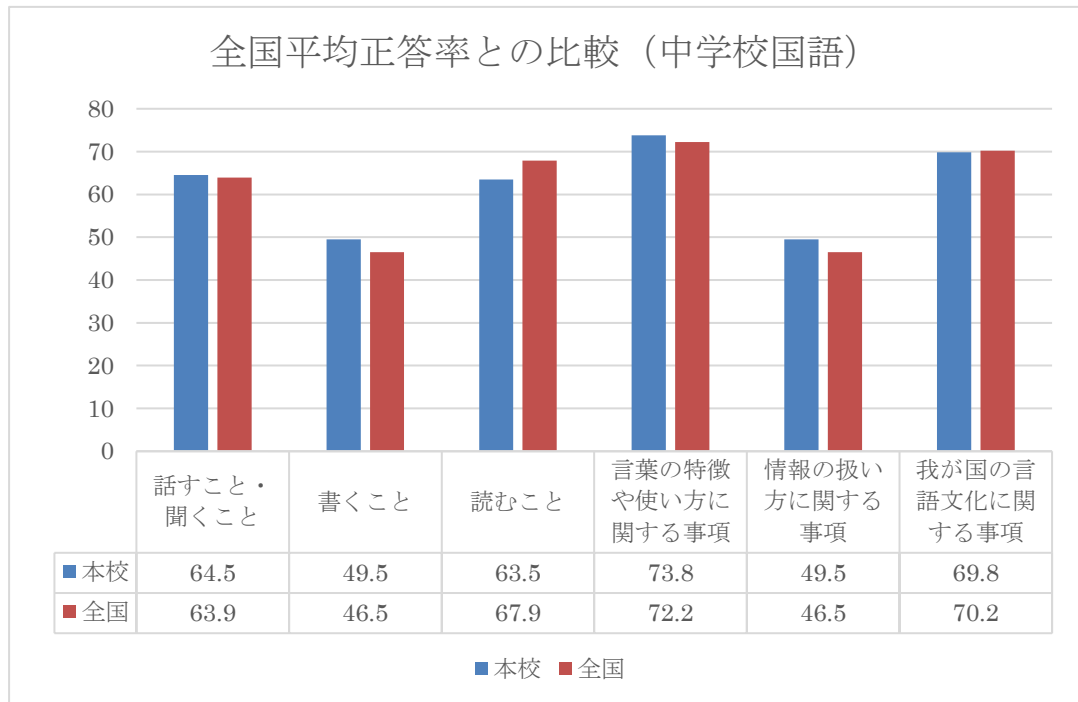
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「思考力、判断力、表現力等」を見る問題(左3つ)のうち、「書くこと」は、全国平均正答率を3ポイント上回り、「話すこと・聞くこと」は、ほぼ全国平均と同等、「読むこと」は、4.4ポイント下回りました。「知識及び技能」を見る問題(右3つ)は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」ともに、全国平均正答率を上回り、「我が国の言語文化に関する事項」では、ほぼ全国平均並でした。また、無解答率をみると、書写の分野の問題以外は、全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が全国平均正答率を1.2ポイント上回りましたが、「思考・判断・表現」は0.7ポイント下回りました。文脈に即して漢字を書く問題では2問とも全国平均を上回り、そのうち1問は9.6ポイントも上回りました。漢字や言葉の学習の成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率57.1%は、全国平均57.4%と0.3%しか差がありませんが、苦手になっている生徒がいます。生徒の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

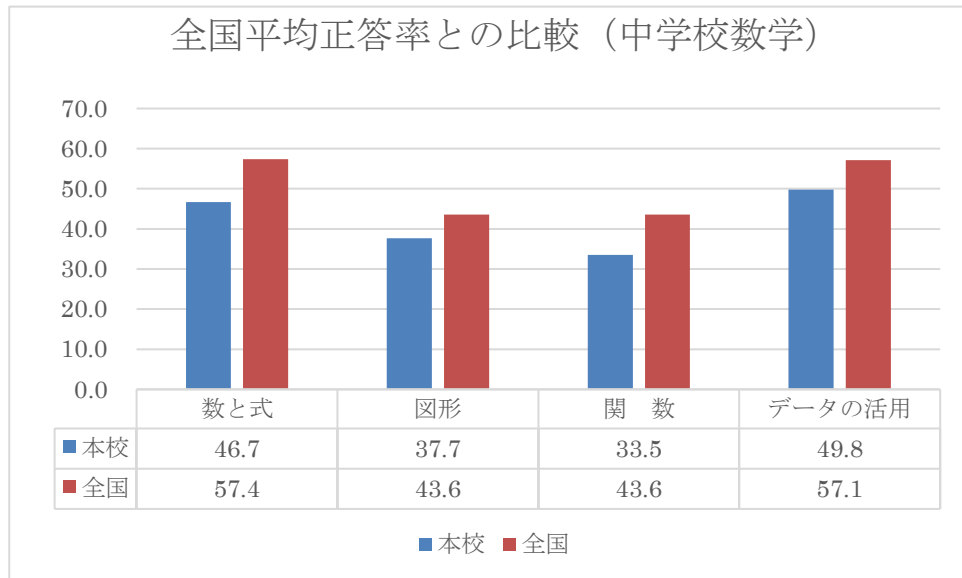
【学校では】

- お子様が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、生徒同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き等の学習を続けるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- 我が国の言語文化に関する事項についての学習にも力を入れます。

【ご家庭では】

- その日習ったことを確認し、積み残しを作らないように復習をさせてください。
- 宿題をきちんとやらせてください。わからないところは、友だちや先生に聞くようにさせてください。
- 新聞やいろいろなジャンルの本をたくさん読ませてください。初めて知る言葉やわからない言葉に遭遇したらおうちの人に聞いたり辞書等(インターネット可)で調べさせたりしてください。
- いろいろな話題でたくさん会話をしてください。

2 数学



(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率を下回りました。特に「数と式」「関数」の領域では、全国平均を約10ポイント下回っています。また、問題形式の「説明」問題や記述の問題で大きく全国平均を下回っています。

(2) 成果と課題

「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する」問題で、全国平均より14ポイント下回っています。また、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題で全国平均を5.4ポイント下回っています。数学的な事象を自分の言葉で説明することに関して、苦手意識を持っている生徒が多いため、見通しを持ち、根拠を明らかにしながら説明する活動を重視していきます。また、それらの問題に関しては「無答率」もそれぞれ、32.4ポイント、27.5ポイントと高くなっており、日頃から自分の言葉で説明する活動を重視します。

「数と式」の分配法則を使った計算の問題は、全国平均をわずかですが上回っており、計算練習を多く行った成果だと考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

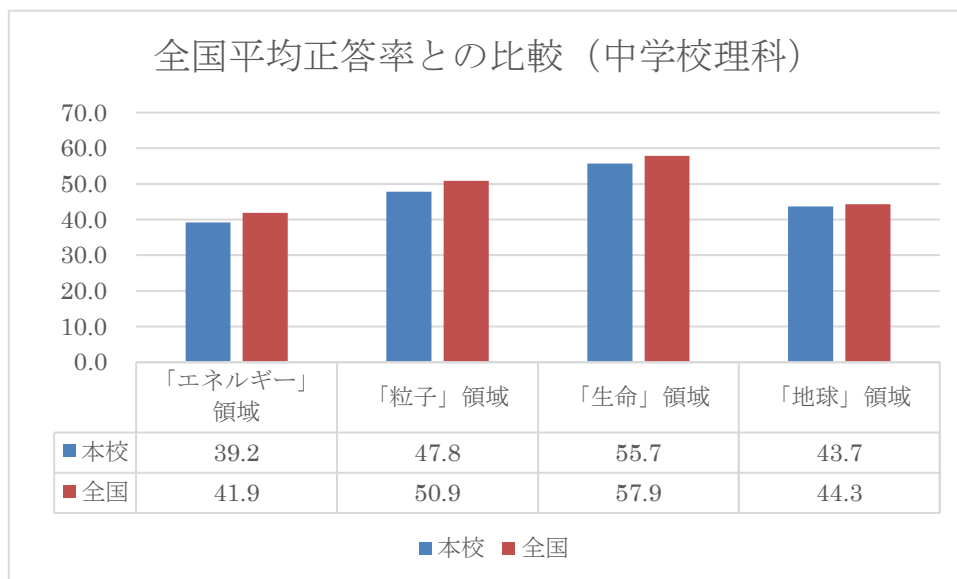
【学校では】

- 三角形の合同の証明や、問題解決の方法の説明など、記述式の問題を多く取り入れ、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、学び合い活動を通して、自分の考えを人に伝えるという場面を多く設定します。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭での課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子様のドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧ください。文字の丁寧さや、誤答の様子など、日々の教科への取り組み状況がうかがえます。努力している点や、成果など、良い面に着目して励ましの言葉をお願いします。
- 「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることで、数学に興味がかかります。生活場面で数学を使う場面を増やしてみてください。

3 理科



(1) 結果

全国平均とほぼ同等の結果でした。全ての領域で全国平均をやや下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「生命」の領域の節足動物の観察の結果から生息域を選ぶ問題の正答率が全国平均正答率を3.0ポイント上回り、セキツイ動物の特徴を答える問いでも2.5ポイント上回りました。また、「地球」の領域の考察から過去の大地の変動を推測する問いや、等圧線の気圧差の柱で考え直す思考・判断・表現についての問いでも、全国平均正答率を上回っていました。一方で、静電気や力がはたらく現象において、物理概念を用いて正確に説明する力に関しては課題が見られました。基礎的・基本的な知識・技能の定着とそれを繰り返し日常生活の中で、自然現象と関連付ける必要があります。また、実験・観察から得られた情報を分析して、解釈し、妥当性や結論付ける根拠を記述する問題が全国平均正答率を5ポイント以上下回るなど、根拠を示す「記述式」の問題でも課題が見られました。日々の授業で、めあてを意識付けて学習することや、実験・観察後の考察する力も重要であると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 自然現象に対する理科の見方・考え方を活かした課題解決力を育むため、実験・観察、自然体験、科学的な体験を充実させます。
- 知的好奇心や探究心をもって自分のこととして問題を認識させるように、課題提示における工夫や問題解決的な授業展開を一層充実させます。
- 日常生活との関連付けを図るため、知識を活用していく探究的な学びを取り入れていきます。

【ご家庭では】

- お子様の宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 日常生活の中で、「なぜ？」とか「不思議だな」といった疑問から会話を弾ませ、お子様の興味・関心を引き出していきたいと思えます。そして、その中でのささいなつぶやきや発見に寄り添っていただくことで、意義深い自然体験としていただきたいと思えます。それこそが科学的な思考力や表現力を培うことにつながります。

生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	82.9%	79.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	34.7%	37.0%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	57.3%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	32.7%	36.0%
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。	24.1%	21.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	76.4%	73.5%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	91.0%	82.6%
人が困っているときは、進んで助けていますか。	57.3%	40.6%

朝食・起床については、全国平均を上回っていますが、就寝については下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭での習慣化をお願いします。

挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。また、「いじめは絶対ダメ」「困っている人は進んで助ける」という生徒が、全国よりかなり高い割合です。学校目標「思いやりの心とチャレンジ精神に満ちあふれた生徒の育成」の「思いやりの心」が浸透している結果ではないかと思われる。「チャレンジ精神」については、さらに向上するように学校でも言葉かけをします。自尊感情については、全国平均をかなり下回っています。学校でも家庭でもよいところを見つけてほめる機会を増やしていければと思います。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	13.1%	15.4%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	6.0%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	22.1%	25.3%
「1時間以上、2時間より少ない」	40.7%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	23.6%	17.0%
「30分より少ない」	5.5%	8.5%
「全くしない」	2.0%	4.9%

家庭学習については「自分で計画を立てて勉強している」生徒が全国平均より低く、1日に2時間以上勉強している生徒は全国平均より7.1%も低い。また1時間未満の生徒が3割以上いて、全国平均より高い結果となっています。逆に、1日に1時間以上テレビゲーム等をする生徒は72.8%で、全国平均の71.3%より高い結果となっています。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校教育目標「思いやりの心とチャレンジ精神に満ちあふれた生徒の育成」に向け、学校行事や学級・生徒会活動等で、個に応じた出番・役割を設定し、努力や成果を承認して自己肯定感を高めていきます。
- 自分の進路目標に向かってどう取り組むかを自分で考えさせ、気づかせ、行動できるよう助言します。

【ご家庭では】

- 会話の時間を増やし、様々な場面で、正しいことを教えてください。
- お子様が将来何になりたいか、どのような職業に向いているかなど、機会を捉えて将来の話をして、自分の人生未来を切り拓いていくのは自分だということを意識させてください。